組合ニュース

第　１　５　１　６　０　号
２０１８年２月７日(水)
新日鐵住金和歌山労働組合
組　織　教　宣　部

WAKAYAMA WORKERS' UNION

代表内線番号　和歌山地区(本部)　(54)-3590　堺地区　652990　海南地区　(54)-5555
組　合　Ｈ　Ｐ　http://nssmwu.jp/

第 6 回中央委員会報告

【日時】1 月 30 日（火）
17 時 15 分～17 時 55 分
【出欠】出席 83 名、欠席 10 名　出席率 89%
【議長】後山氏

Ⅰ　報告事項

1．上部団体会議報告
・第 7 回中央執行委員会
・第 8 回中央執行委員会

2．箇所労使協議報告
・2017 年度 4/四期合理化案件について(その 2)
・海南地区社員倶楽部の閉鎖について
・日鉄住金鋼鉄和歌山㈱の吸収合併と
これに伴う人員措置の実施について(その 2)
・中央整備機能の直営化について
・2018 年 2 月払(2018 年 1 月分)以降の
通勤交通費支給額について
・2 月度生産計画について

3．政策実現対策委員会報告
・紀美野町長選挙の結果について

4．ＡＰ18 春季取組み方針(案)に関する
職場討議結果報告

5．「U・遊ｼｱﾀｰ」の開催について
上映作品「怪盗グルー　ミニオン大脱走」

6．2 月度日程について

Ⅱ　審議事項

1．和歌山労組における
AP18 春季取組みに関する件(案)

2．新日鐵住金労連「第 6 回中央委員会」への
対応に関する件(案)

3．基幹労連「第 15 回中央委員会」への
対応に関する件(案)

◇中央委員会の議事の一部を紹介します◇

◆中央整備機能の直営化について（要旨）

（会　社）

当所和歌山・海南地区における中央整備機能については、1989年に機械・電気補修・設備診断機能を、2001年に機動整備（機械）機能を、その後、機動整備（電気）・計装整備機能を除くほぼ全ての機能を日鉄住金テックスエンジ㈱（以下、「テックスエンジ」という）に業務委託してきたところである。

今般、テックスエンジに業務委託している機械補修、電気・計装補修、機動整備（機械）、設備診断の各機能を直営化し、中央整備機能を一元集約することで、計画保全の推進や保全効率化、高難易度技能補修を担保・再生産する体制を築き、更なる保全機能の維持・向上を図ることとしたい。

1．実施施策

テックスエンジに業務委託している機械補修、電気・計装補修、機動整備(機械)、設備診断業務の直営化

2．要員規模

(1) 機械補修	2職位
(2) 電気・計装補修	2職位
(3) 機動整備（機械）	24職位
(4) 設備診断	4職位

3．実施期日

2018年4月1日

4．人員施策

テックスエンジからの出向受けとする。

以上、テックスエンジに業務委託している機械補修、電気・計装補修、機動整備（機械）、設備診断機能の直営化を提案をしたところであるが、直営化後の組織体制や要員設定については、別途成案を得次第、改めて説明する。

（組　合）
ただいま会社より、中央整備機能の直営化について説明・提案を受けたところである。
組合としては、中央整備機能を直営化することは和歌山製鐵所における「造る力」の強化に資する施策の一つであるものと認識し、その必要性について理解するものである。
そのもとで、本施策による中央整備機能の一元集約後の組織体制や人員措置についての考え方など、会社と議論したいところであるが、本日は説明・提案を受けた直後であることから、本施策内容について十分に精査したうえで、後日、会社との話し合いの場をもって質すこととしたい。

◆紀美野町長選挙結果



去る、1 月 16 日(火)に告示された紀美野町長選挙は、対立候補が出なかったことから、和歌山労組推薦の「寺本　光嘉」氏が無投票で 4 期連続の当選をされました。
皆様のご支援とご協力ありがとうございました。

◆日鉄住金鋼鉄和歌山（株）の吸収合併とこれに伴う人員措置について

2017 年 12 月 27 日　臨時経営委員会・労使協議会議事録（要旨）

（会　社）
鋼鉄和歌山は、2003 年の住友金属工業（株）和歌山製鐵所における構造対策の一環として、中國鋼鐵股份有限公司（中国鋼鉄。以下「ＣＳＣ」という。）、住友商事（株）とともに設立した東アジア連合鋼鐵（株）の 100％子会社として、和歌山製鐵所の上工程部門（製銑、製鋼）を分社したものであり、その際の人員措置については転籍とした。
その後、住友金属工業の新日本製鐵との経営統合（2012 年）や、ＣＳＣグループ会社における銑鋼一貫体制の完成（2013 年）により、鉄源供給拠点としての鋼鉄和歌山を取り巻く環境は大きく変化した。こうした変化を踏まえ、スラブ供給に関する契約を見直し、ＣＳＣによる年間スラブ引受量を 180 万トンから 120 万トンに引き下げるとともに、ＣＳＣ出資分の一部について当社による買い取りを実施した。
こうしたスラブ供給に関する契約の変更を踏まえ、鋼鉄和歌山と当社との一体運営を一層強化し、より効率的な業務遂行体制としていく観点から、当社としてＣＳＣと継続して協議を行ってきたところ、今般、2018 年 4 月 1 日をもって当社が鋼鉄和歌山を吸収合併することについて合意した。
本合併に伴う人員措置は以下の通りである。

1. 対象者

鋼鉄和歌山に勤務するすべての者
当該従業員の皆さんは、当社において採用され、その後鋼鉄和歌山へ転籍された方々であることから、今回の措置にあたり特段の選考等を行う考えはない。

2. 対象人数

約 970 名

3. 対象者の取り扱い

労働条件について
鋼鉄和歌山においては当社と同じ労働条件(福利厚生含む)を適用しており、あらためて当社の従業員となるにあたっても、その労働条件に変更はない。

2018 年 1 月 29 日　箇所臨時経営委員会・労使協議会議事録　（要旨）

（組　合）
去る 2017 年 12 月 27 日に開催した臨時経営委員会･労使協議会において、会社より説明を受けた日鉄

住金鋼鉄和歌山㈱の吸収合併とこれに伴う人員措置の実施について、当該支部と連携を図りながら組合員からの意見集約に努めてきたところである。

その結果、今回の鋼鉄和歌山の吸収合併に伴う人員措置については、会社説明のとおり、対象者全員が新日鐵住金㈱において採用され、その後鋼鉄和歌山へ転籍されたことから再入社に伴う選考等を行わないこと、また労働協約および関係諸協定に基づき労働条件や福利厚生に変更が無いこともあり、当該支部からは特段の意見・要望は無く、本来のあるべき姿に戻るものと受け止められている。

最後に、改めて新日鐵住金グループにおける重要な鉄源供給拠点として和歌山製鐵所の磐石な基盤確立につながる施策となるよう要請するとともに、今回再入社となる対象者に対しては、丁寧な対応を図るよう求めておく。

【日鉄住金鋼鉄和歌山㈱の吸収合併に対して、当該部協より意見と決意が述べられました】



2003 年に分社化し、現在に至るまで「鉄源供給拠点」として重責を担ってきました。今後新日鐵住金として、一体感を持った活動の展開と「安全と健康」を最優先に協力・努力します。

製鋼部協代表
小林中央委員



2003 年当時、当社の生き残りをかけた中の施策であり、今回の施策を喜ぶと同時に複雑な思いがあるのも事実です。

今後は、今まで以上に一体感を持って各種活動に取組んでまいります。

設備部協代表
岡本中央委員



今回の吸収合併については、労働条件やその運用に変化はないと認識しており大変喜ばしいことです。製銑部で働く一人ひとりが引き続き安全と健康を最優先に、より一体となった活動を展開していく事をお誓いします。

製銑部協代表
平井支部長

報告事項 6 件異議無く承認、審議事項 3 件満場一致で可決決定。

◆決起集会開催のお知らせ！！

ＡＰ18 春季取組みの盛り上げを図る為、決起集会を開催します！

日　時　2018 年 3 月 1 日（木）　17 時 30 分～18 時 00 分

場　所　和歌山・海南地区：組合会館前駐車場
（雨天時は社員倶楽部多目的ホール）
堺地区：形鋼センターＮｏ．１・２会議室

対象者　和歌山労組組合員並びに、ＮＳＧＲ加盟単組組合員
※常昼勤務者または甲番勤務者については、全員の参加をお願いします。

その他　※駐車場には限りがあるので、出来るだけ乗り合わせにて対応お願いします。



ＡＰ16 春季取組みでの決起集会風景

◆釜石労組より、「釜石支援カンパ」のお礼状が届きました

2017年11月1日～11月31日の間、年末助け合いカンパを実施し、その中から東日本大震災の復興支援として「釜石支援カンパ」へ協力をしてまいりまいした。

このたび、釜石労組の三浦組合長よりお礼状が届きましたので、以下にその原文を掲載します。

2018年1月吉日

新日鐵住金和歌山労働組合
組合長　　山本　龍一　様

新日鐵住金釜石労働組合
組合長　三浦　一泰

東日本大震災大津波復興支援　義援金のお礼

謹啓　寒風の候、新日鐵住金和歌山労働組合におかれましては、益々ご隆盛のこととお慶び申し上げます。

さて、和歌山労働組合の皆様には、東日本大震災大津波発生から今日に至るまで物心両面にわたり心温まるご支援を頂戴するとともに、昨年12月には組合員の皆様の心のこもった義援金を届けて戴きました。

新日鐵住金釜石労働組合は、昨年が大震災から６年、仏教でいう７回忌ということを踏まえ、これまで釜石労働組合に寄せられていた義援金を活用し、亡くなられた組合員やご家族へは香典として「フラワーギフト」、ご自宅を流失された方々へは引っ越しなどの生活復興支援として「生活応援費」を手交させて戴きました。

被災された方々からは、和歌山労働組合の皆様に対して感謝の声が多く寄せられています。

今回頂戴した義援金につきましても、これまで同様に被災された方々の生活復興に使わせて戴きたいと考えております。

釜石労働組合を代表し感謝申し上げます。誠にありがとうございます。

釜石地域の復興状況は、2019年ラグビーワールドカップ釜石開催が決まって以降スタジアムの建設は勿論のこと各地で復興工事が急ピッチで進み始めています。中でも浸水地域の嵩上げ工事や命の道と言われる高速道路の工事が山間部から街方へと進むなど、浸水地域工事と高速道路工事が相まって復興の土煙を上げているところです。

一方、被災地で避難生活を続けている方々は、全国では昨年12月末時点で77,436人、岩手県では9,204人となっています。また、岩手県内の応急仮設住宅などに入居されている方々は、8,093人と未だに多くの方々が不便な生活を余儀なくされているのが現状です。

被災された方々の住居については、災害公営住宅がようやく完成ラッシュに入ったものの資金面などの理由から転居方針が定まらない方も少なくないのが現状です。また、自宅を自力再建する人向けの宅地造成の遅れが目立っており、復興を待ちきれずに地元から離れる被災者も多く、造成した宅地が空地化するなど被災者の住宅が再建された後の街づくりに懸念が出てきています。

こうしたことを考えると被災された方々の本当の生活復興や地域の復興には、長い時間を要すものと考えられることから、今後も被災された方々にしっかり寄り添った活動の展開や組合員を含めた釜石市民が安心して暮らせる街づくりを早期に進めることが求められています。

釜石労働組合は、皆様から戴いた支援や激励を心の糧に全力で各種活動に取り組み、今後も組合員等の早期生活復興や釜石地域の早期復興に向け全組合員が一丸となって頑張る所存です。

末筆ながら組合員の皆様のご健勝とご多幸、和歌山労働組合のご発展をお祈りし、略儀ながら書中をもってお礼に代えさせて戴きます。

謹白